

### 自由論題 3

#### 報告テーマ

事例研究からみる現代中国における中等職業学校の変遷とその要因

Changes and Factors Affecting Chinese Secondary Vocational Schools from A Case Study

#### 氏名(所属)

王維亭(千葉大学)

Wang Weiting(Chiba University)

#### 要旨(800字程度)

本研究は中国の職業教育、特に中等職業教育に着目し、事例研究と合わせて近年中国における中等職業教育の変遷とその要因について考察する。

従来中国では職業学校に対するイメージがあまり良くない。「2005年中国技能人材職業声望調査」では、52.7%の回答者が「技能労働者の社会的地位が高くない」と評価し、約68%の回答者が自分の子供を職業学校に行かせたくないと考えている。だが、近年中国政府は就職難を解決するため、また新興産業の発展に対して相応する職業教育に力を注ぎ、その状況が変化しつつある。

2018年8月中国国家重点中等職業学校A校にて行った校長へのインタビューでは、A校学生の就職率は98%以上を維持していることがわかった。該校が一貫して「校企合作、資源共有、連合培養」を目標とし、「就職に有利になる、創業に意欲が持つ、進学に希望がある」という理念の下で中国の発展に沿って各職業に適応性のある学生を育成していた。

しかし、中国は2019年から3年間、高等職業学校への入学募集定員を毎年100万人ずつ、計300万人増やすという計画が打ち出した。2018年まで中国の労働年齢人口が教育を受けている平均年数は11.3年に上り、すでに義務教育の年数を超えている中、企業にとって中等職業学校の卒業証書はもはや満足できない現状がある。2019年前までA校の約40%の学生が協定大学への進学を希望していたが、2019年から進学を希望する学生は80%まで増えた。学生募集の角度から中国社会の発展の波にのらないと中等職業学校の存続にもかかわってくる厳しい現実の中、2020年末にA校はすでに高等職業学校へのランクアップの申請が完了している。

本研究は今まで中国における中等職業学校の変遷をみつつ、これから中等職業学校が高等職業学校にランクアップした後に、就職率も高いままという仮説の上、現状を明らかにするため、継続的にA校にてアンケートとインタビュー調査を行う予定である。